

CODE 海外災害援助市民センター
2010 年度事業報告
2010.4.1～2011.3.31

事業報告一覧

事業	事業名	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び予定人数	支出額 (千円)
海外災害地への救援活動事業	救援プロジェクト	随 時	イタリア	対象地域住民	0
		随 時	アフガニスタン	対象地域住民	1,222
		随 時	サモア・西スマトラ	対象地域住民	1,179
		随 時	ハイチ	対象地域住民	4,847
		随 時	チリ	対象地域住民	128
		随 時	インドネシア・ジャワ	対象地域住民	493
		随 時	中国・四川	対象地域住民	4,196
		随 時	中国・青海	対象地域住民	671
人材育成事業	NGO ことはじめ	実施せず			0
	HAT 国際機関訪問	実施せず			0
	スキルアップ研修	実施せず			0
	ボランティアの日	実施せず			0
災害関連情報の収集及び発信事業	災害情報サイト(CODE World Voice)の運営	随 時	全 国	不特定多数 翻訳ボランティア 5 名	0
国内外のネットワーク構築事業	関係機関の開催するセミナー、シンポジウムへ出席	随 時	全 国	20 名	32
	神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」	2010年 4月～7月	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス	各回学生 20 名	0
	コープこうべとの連携事業	随 時			0
「市民による災害救援」に関する調査・研究事業	CODE 寺子屋学習会	6月～11月 計 5 回	CODE 事務所 (神戸市)	延べ 90 名	24
「市民による災害救援」に関する啓発及び広報活動事業	賛助会員の拡大	随 時	全 国	不特定多数	0
	救援プロジェクト報告会及び講師派遣	随 時	全 国	不特定多数	23
	機関誌及びインターネットによる情報発信	機関誌は 2 回発行、 インターネット随時	CODE 事務所	機関紙 700 部	255
	冊子・グッズの発行・販	随 時	全 国	不特定多数	0
その他本会の目的達成の為に必要な	CODE エイド準備	実施せず			0
	スタッフ奨学金制度	随 時	全 国	スタッフ	0

【海外災害（地）への救援活動事業】

事業名	イタリア中部地震救援プロジェクト
実施日時	2009年4月～
実施場所	イタリア・日本
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	昨年度と同様、被災地と連絡を取り続け、これまで学んできた「道化師治療」ボランティアを生かしての支援を追求してきたが、特段の進捗はなかった。

事業名	アフガニスタン救援プロジェクト ～ぶどう畑再生支援事業～
実施日時	2003年～
実施場所	アフガニスタン カブール州ミール・バチャコット地域
受益対象者の範囲及び予定人数	ミール・バチャコット地域の4村。人口は約15000人、全世帯数1560世帯。今年度までに本事業に直接裨益した農業従事者は480世帯
実施内容	<p>2010年度までの経緯：治安の悪化で、アフガニスタン現地での支援活動を行うことは困難になっていることから、外務省はNGOに「遠隔操作」での支援に切り替えるよう呼びかけてきた。当会は早くにそのような事態を予測し、日本での農業研修を提案。兵庫県佐用町を提案自治体として、2007年からの3ヶ年、JICAの草の根技術協力事業（地域提案型）を終えた。</p> <p>2010年度の動き：現地カウンターパートのラフマンさんに研修の成果についてヒアリングを続け、学んだ技術が活かされていることを確認した。事務局での活動は、報告や広報による支援者拡大が主となった。アフガニスタンで生産されたぶどうを日本で利用（菓子づくりなど）することで本事業を広報する取り組みについて、試作や情報収集を継続している（菓子づくりについては既に、NPO法人スローワーク協会と連携。同団体には、CODEボランティアのSさんが就労している）</p> <p>*11月12日～16日 写真展「よみがえれアフガニスタンのぶどう畑」（都市生活コミュニティセンター主催、CODE共催）</p> <p>*1月18日 国際防災シンポジウム2011「コミュニティ防災の挑戦：気候変動適応への道のり」（UNCRD等実行委員会主催）でアフガンぶどうプロジェクトを報告</p> <p>*1月26日、31日、2月1日 楠高校の授業にてアフガニスタンぶどうプロジェクトを紹介（岡本）</p> <p>*3月11日 コープこうべハート基金運営委員会でアフガン報告</p>

事業名（新規）	サモア・西スマトラ地震救援プロジェクト
実施日時 実施場所	サモア諸島及びインドネシア・スマトラ島西部パダン県周辺
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	CODE理事・藤野さんのPHD協会の元研修生アリさんがパダン県で被災した漁村におられたことから、CODEに集まった寄付を全額PHD協会に託した。経過についてはPHD協会からの報告を待つ。

事業名（新規）	ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010年1月13日から

実施場所	ハイチ共和国レオガン
受益対象者の範囲及び予定人数	Cardinal Leger 病院が位置する周辺 20 のコミュニティ、人口 7000 人 (レオガンの人口 134000 人)
実施内容	<p>複数の支援活動を実施した。</p> <p>クワウテモックさんの派遣： 2010 年 1 月 25 日～3 月 10 日、3 月 30 日～5 月 15 日、6 月 17 日～9 月 5 日と、震災直後よりクワウテモックさん(メキシコの NGO リーダー)を派遣。CODE のミッションを受け、被災地レオガンで支援者と被災コミュニティとをつなぐ調整役として活躍。これまでの経験を活かし、仮設診療所・移動診療所の立ち上げに貢献した。また、周辺の 5 つの孤児院を訪問して各種アクティビティ(ダンス、ゲーム、映画上映など)を企画。クワウテモックさんという人材の派遣自体が、災害直後の救援活動をサポートし、被災地に大きく貢献した。</p> <p>被災者経済再建支援プログラム(カウンターパート: ACSIS / 場所: ラブレン): 9 月の野崎理事による中長期的復興支援のための調査を受け、以下 3 つのプロジェクトの実施に至った。ACISIS は首都ポルトープランスの北に位置するラブレンという地域で活動してきた地元の若者による団体。2011 年 1 月、被災した小規模事業者の事業再建・生計再建のため、マイクロファイナンスによる起業支援を開始、40 名の女性事業者に一人当たり 300US ドルの貸付を行った。 第 1 回目の返済は、3 月 26 日(日)に 37 名、3 月 29 日に 2 名、4 月 4 日に 1 名という具合で計 40 名全員が返済した。</p> <p>コミュニティセンター建設(カウンターパート: Ayuda a Haiti / 場所: レオガン): Ayuda a Haiti はドミニカから最も早く現地入りした NGO のひとつで、他団体ともうまく連携し、レオガンを中心に「保健・医療」や「子供・女性」分野での支援活動を行ってきた。被災者どうしが集い、ともに学ぶ場を作ることに積極的にあり、ワークショップなどの際に利用するコミュニティセンター建設の提案を受けた。コミュニティセンターは人と人がつながるきっかけとなり、復興や防災の拠点ともなり得ることから、CODE はこれに賛成し、現在、建設地や費用などの詳細について調整中。</p> <p>農業支援のためのマイクロファイナンス(GEDDH / 場所: レオガン): 1976 年、日本からハイチに渡り結核治療に取り組んでこられた医師、シスター須藤昭子さんが農業支援を行うために設立した NGO。震災前からハイチの若者たちが農業技術を学んだり、炭焼きをしたりと積極的に活動しており、かねてから農業学校の建設も計画していた。CODE は、GEDDH がこれまで行ってきたコミュニティへの農業支援を、マイクロファイナンスによってサポートする相談を行ってきたが、2011 年 3 月、須藤さんより、マンパワー不足のため実施が難しい旨連絡を受けた。</p> <p>* 3 月 30 日～5 月 15 日 海外研究員クワウテモックさんをハイチに 2 次派遣 * 4 月 8 日 ハイチ支援に関しパナソニック組合にプレゼン(村井理事) * 4 月 12 日 ハイチ支援に関しパナソニック役員にプレゼン(村井理事) * 5 月 12 日 JICA 兵庫主催 ハイチ復興支援研究会に参加 * 6 月 23 日 本願寺社務所にてハイチ地震寄付の贈呈(村井理事、岡本) * 8 月 24 日 JICA ハイチ国別研修事前調査帰国報告会に参加(村井理事・野崎理事) * 8 月 31 日～9 月 6 日 野崎理事をハイチに派遣 * 9 月 29 日 パナソニック提供・龍谷講座 in 大阪「緊急救援・復興支援の現場から」(ハイチ報告)のパネリスト(村井理事) * 11 月 13 日 宝塚音楽回廊にてハイチ写真展示・解説(岡本) * 1 月 14 日 関西 NGO 協議会、パナソニック労働組合連合会にハイチ活動報告(岡本) * 3 月 9 日 JICA 兵庫「ハイチ研修」に参加(岡本)</p>

	* 3月22日 JICA兵庫のハイチ研修で講義(村井理事・野崎理事)
	* 3月16日 コープこうべでハイチ報告(野崎理事)

事業名(継続)	チリ地震救援プロジェクト
実施日時 実施場所	2009年2月27日 チリ国コンセプション
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	HuMA(災害人道医療支援会)と神戸大学都市安全研究センター連携融合事業担当と連絡を取りながら支援について検討してきた。HuMAへの支援を決定したものの、チリ政府筋からの救援依頼がなかったため、全額保留となっている。 * JICA兵庫主催の「チリ地震現地報告会」に参加(4月9日)

事業名(継続)	「ジャワ島中部地震救援ウォータープロジェクト」 (通称:呼び水プロジェクト)
実施日時	随時(インドネシア・ジャワ島中部地震への支援活動は2006年5月27日から。同プロジェクトは2008年4月1日から継続)
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県パンガン郡ジリセカール村落内のナワンガン集落(住宅被害は全半壊6軒)
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民132名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ジリセカール村落7000名、パンガン郡2万7000名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>これまでの経緯: 2008年1月、「呼び水プロジェクト」として、ナワンガン集落での水道管敷設を実施(同4月施工完了)。水と農業の問題に向き合ったことを機に、この集落が抱える貧困・若者の都市への流出についても住民自ら取り組みはじめた(浮いた水代をプールしてマイクロファイナンスを実施)。</p> <p>2010年度の動き: CODEはこれを受け、本格的に持続可能な暮らしの確保に向けて「JICA草の根技術協力事業(支援型)」案件(3年間で2500万円以下)への申請を決定した。事前調査・相談のため2010年7月、村井事務局長と岡本が現地を訪れ、ナワンガン集落住民、カウンターパートとなるデュタ・ワチャナ・キリスト教大学との話し合いを行った。</p> <p>以後JICA側とも協議を重ね、現在、実施までの6ステージのうちの3段階目(「事業提案書作成・提出、内容検討、採否決定」)にあたる。(4段階目:相手国了承取付、5段階目:業務委託契約締結、6段階目:実施)</p> <p>なお、神戸学院大学防災・社会貢献ユニット浅野壽夫教授のゼミでは、2008年度、2010年度に続き2011年度も海外フィールド研修に同地を選んでおり、情報収集等において連携していくことになる。</p> <p>* 5月24日 「インドネシア呼び水プロジェクト」JICA草の根協力支援型申請に関するJICA兵庫との打ち合わせ * 7月14~23日 インドネシア・ジャワ 呼び水プロジェクトの事前調査(村井理事・岡本) * 9月13日 7月の調査訪問を踏まえてJICA兵庫との打ち合わせ * 9月27日~10月26日 エコ・プラウトさん神戸に滞在(HORN事業)呼び水プロジェクトに関する話し合い * 10月11日 CODE寺子屋セミナー「CODEのインドネシアプロジェクトについて ~ナワンガン村の農村開発の可能性~」(エコ・プラウトさん)</p>

--	--

事業名（継続）	中国・四川大地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日から
実施場所	四川省北川県香泉郷光明村
受益対象者の範囲及び予定人数	光明村及び周辺住民
実施内容	<p>当初確定していた、医療施設を含む「総合活動センター」建設のプロジェクトが思いがけず頓挫したことから、新たに「老年活動センター」建設を決定した。「木造の家は壊れにくかった」という体験をアピールできる耐震のモデル建設とし、高齢者の娯楽室・運動用スペース、子ども向け図書室のほか、建物の骨組みをみることができる「震災展示室」を設置する。村おこしにつながる活動の拠点としても活用が期待される。11月には芹田代表が建設に際する調印式のため現地を訪れ、香泉郷人民政府立ち会いのもと、光明村村長との調印を行った。</p> <p>*6月4日 共生人道シンポジウム「国際人道支援にこころが揺れ動いた時～中国四川大地震における心理社会的サポート」にコメンテーター、パネリスト出席（村井理事）</p> <p>*11月20日 香泉郷人民政府の立ち会いのもと、「老年活動センター」建設に関する調印（調印者：CODE-芹田代表、光明村村民委員会村長-謝洪全）</p> <p>*10月13日～11月3日 四川省地震第14次派遣（吉椿）</p> <p>*11月17日～12月26日 四川省地震第15次派遣（吉椿）</p> <p>*2月19日～3月9日 四川省地震第16次派遣（吉椿）</p>

事業名（継続）	中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010年4月14日から
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省540万人、玉樹チベット族自治州人口28万人、玉樹県10万人
実施内容	<p>直後より2008年の同国四川省地震以来連絡を取り合っている成都市のゲストハウス「Sim's Cozy Garden Hostel」と連絡し、被害状況はじめ実態把握に努めつつ、日本における救援活動を立ち上げた。また、調査のため、四川に滞在中の吉椿を二度青海省に派遣し、地元NGOとのネットワークを築いた。チベット人の生活に密接に結びついたヤクを利用した支援ができないか検討中。</p> <p>*6月上旬 青海省地震第一次調査（吉椿）</p> <p>*10月20～29日 青海省地震第二次調査（吉椿）</p>

事業名（新規）	インドネシア・ムラピ火山救援プロジェクト
実施日時	2010年12月10日から
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ州のムラピ火山噴火による被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	

実施内容	この火山で被害を受けたジョグジャカルタ特別州、中部ジャワ州は 2006 年 5 月のジャワ島中部地震の被災地でもある。当時から支援活動で CODE が協働している建築家・アーティストのエコ・プラウトさんや、エコさんを通して知り合ったアーティストのアラフマイアニ・フェイスルさんと連絡をとって情報収集にあたってきた。アラフマイアニさんのグループでは、食糧支援や給水設備の再建などを実施した。家畜の飼育や、火山灰に適した農作物の栽培など生計手段の立て直しを視野に活動している。火山災害からの復興は長期にわたるため、CODE は彼女たちの活動を長い目でバックアップしていく。2010 年度に行ったことは情報収集・ネットワーキングの段階までである。
------	--

事業名（実施済）	バングラディシュ・サイクロン「シドル」救援プロジェクト
実施日時	プロジェクトは 2007 年 11 月 20 日から 2009 年度末まで。 2011 年 2 月 26 日より 3 月 3 日まで、村井理事がモニタリングのため訪問。
実施場所	サイクロン「シドル」被災地域 Bagerhat 地域にある Nisanbaria
受益対象者の範囲及び予定人数	孤児院を使用する 70 人の子どもおよび サイクロン時に建物をシェルターとして利用する周辺住民
実施内容	村井理事がモニタリングのため訪問した。 CODE の元スタッフ斉藤容子さんの協力で、以前からつながりのあるバングラデシュ防災センターのセンター長サイドゥール・ラーマンさんの提案を受け、サイクロン被害のあった孤児院の補修再建を実施した。実施にあたっては周辺住民が労働力や一部資金を提供し、その他の住民もそれぞれできる形で何らかの協力を行った。完成後の運営・管理もボランティアに行われている。

事業名（新規）	東日本大震災救援募金
実施日時	2010 年 3 月 14 日から
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	CODE は主に海外の災害復興支援に取り組んできたが、身近な場所で起きたこのあまりに悲惨な状況を見過ごすことはできない。まずは募金の呼びかけを開始した。これまでの CODE の経験やネットワークも役立てるとともに、地震発生から活動を開始している被災地 NGO 協働センターを支援する。

【人材育成事業】

事業名	NGO ことはじめ
実施日時	
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	実施せず

事業名	HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー
-----	-------------------

実施日時	
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	実施せず
事業名	スタッフのスキルアップ研修（スタッフは専従・非専従を問わない）
実施日時	随時
実施場所	原則国内
受益対象者の範囲及び予定人数	若干名
実施内容	<p>* 10月25日～28日 アジア防災閣僚会議（韓国・仁川）に傍聴参加（岡本）</p> <p>* 11月22、24日 JICA「インドネシアにおける地震火山の総合防災策」プロジェクト会議（一般公開分）傍聴参加（岡本）</p> <p>* 12月28日～ JICA・関西 NGO 協議会「NGO 組織強化のためのアドバイザー派遣」受講（全7回）（岡本）</p> <p>* 2月25日 JICA・関西 NGO 協議会「NGO 組織強化のためのアドバイザー派遣」最終回で全体報告会（村井理事・岡本・細川）</p>

事業名	ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	特に日を決めた呼びかけはしていないが、特に東日本大震災以降、学生・社会人問わず常時2～5名程度がボランティアに来て下さっている。

【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	災害情報サイト（CODE World Voice）の運営
実施日時	随時（2002年からの継続事業）
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて。
実施内容	CODE のプロジェクト地を中心として、日本のテレビや新聞の情報だけでは見えてこない被災地の暮らしについて発信を行った。既に CODE のボランティアをして下さっている方のつながりで、この取り組みに興味のある方が現れ、新たな協力者も加わった。

【ネットワーク構築事業】

事業名（継続）	（関係機関からの受託事業）神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣
実施日時	4月から7月まで、毎週火曜日第4限目。（5月5日は休講）
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

受益対象者の範囲及び予定人数	約 30 人
実施内容	<p>CODE とのコラボレーション事業という位置づけで始まった神戸学院大学社会貢献ユニットへの講師派遣は、2010 年度も下記のようなスケジュールと講師陣および内容で実施した。</p> <p>< 内容 ></p> <p>第 1 回 (4/13) ガイダンス：(浅野、村井)</p> <p>第 2 回 (4/20) CODE海外災害援助市民センターが担う社会貢献について(村井)</p> <p>第 3 回 (4/27) 震災障害者が語る震災(牧秀一)</p> <p>第 4 回 (5/11) 兵庫県佐用町水害の教訓と足湯ボランティア(藤室玲治)</p> <p>第 5 回 (5/18) ハイチ地震から学ぶ(村井)</p> <p>第 6 回 (5/25) ジェンダーと災害 (斉藤容子)</p> <p>第 7 回 (6/1) 呼び水プロジェクト - インドネシア・ジャワ島での挑戦 (村井、エコ・プラワット)</p> <p>第 8 回 (6/8) 前期振り返り(浅野・村井)</p> <p>第 9 回 (6/15) 災害時における地域力(織田峰彦)</p> <p>第10回 (6/22) 災害復興と行政の役割(斉藤富雄)</p> <p>第11回 (6/29) 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠)</p> <p>第12回 (7/6) 農業と持続可能な社会(本野一郎)</p> <p>第13回 (7/13) 減災サイクルともう一つの社会(村井)</p> <p>第14回 (7/20) 受講生の感想文から学ぶ。(村井)</p> <p>第 15 回 (7/27) まとめ(浅野、村井)</p> <p>* 2月15日 神戸学院大学 安心・安全社会システム研究会で講演</p>

事業名(継続・終了)	(関係機関からの受託事業) JICA 草の根技術協力事業(支援型)の案件形成 ~通称:インドネシア・呼び水プロジェクト~
実施日時	随時
実施場所	JICA 兵庫・CODE 事務所など
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民 132 名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>5月24日 「インドネシア呼び水プロジェクト」JICA 草の根協力支援型申請に関する JICA 兵庫との打ち合わせ</p> <p>9月13日 同、調査訪問後の打ち合わせ</p> <p>その他随時電話・メールで連絡</p> <p>現在、実施までの6ステージのうちの3段階目(「事業提案書作成・提出、内容検討、採否決定」)にあたる。(4段階目:相手国了承取付、5段階目:業務委託契約締結、6段階目:実施)</p>

事業名	(関係機関からの受託事業) 関西 N G O 協議会からの講師派遣
実施日時	随時
実施場所	兵庫・大阪
受益対象者の範囲及び予定人数	200 名
実施内容	<p>9月29日 パナソニック提供・龍谷講座 in 大阪「緊急救援・復興支援の現場から」のパネリスト(村井理事)</p> <p>10月29日 関西学院大学社会学部・神学部で講義「NGO 論」(村井理事)</p>

事業名	(関係機関からの受託事業)神戸大学都市安全センターより講師派遣を受託
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	6月17日 神大都市安全研究センター・JICA研修で講義(村井理事) 11月13日 神戸大学都市安全研究センター災害復興報告会「四川大地震・青海省地震のその後」基調報告(吉椿)

事業名	関係団体への正会員加盟やシンポジウムなどの実行委員会あるいは運営委員会への参加
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	不特定多数
実施内容	4月26日 JICA兵庫 国際防災研修センター関係機関連携会議に出席(村井理事) 4月26日 関西 NGO 協議会理事会に出席(村井理事) 5月29日 関西 NGO 協議会総会に出席(村井理事) 7月16日 関西 NGO 協議会理事会(欠席) 9月14日 関西 NGO 協議会理事会(村井理事) 9月16日 「災害対策をめぐる国際協力」第3回研究会(村井理事) 9月17日 外務省シンポジウム「効果的な災害対応に向けて」に参加(村井理事) 10月28日 関西 NGO 協議会理事会(村井理事) 11月16日 神戸学院大学 安心・安全社会システム研究会に参加(村井理事) 11月22、24日 JICA「インドネシアにおける地震火山の総合防災策」プロジェクト会議(一般公開分)傍聴参加(岡本) 12月10日 ひょうご震災記念21世紀研究機構の研究会「災害対策をめぐる国際協力仕組みづくり」に参加(村井理事) 12月16日 関西 NGO 協議会理事会(村井理事) 1月9日 TeLL-NETフォーラム実行委員会に参加(細川) 2月4日 ひょうご震災記念21世紀研究機構の研究会「災害対策をめぐる国際協力仕組みづくり」に参加(村井理事) 2月12日 TeLL-NETフォーラム実行委員会に参加(細川) 3月18日 TeLL-NETフォーラムに参加(村井理事) 3月29日 関西 NGO 協議会理事会(欠席)

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名(新)	CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般。各回約15~20名程度が参加した。

実施内容	6月23日 CODE 寺子屋セミナー「中国・青海省地震報告会」(吉椿) 6月25日 CODE 寺子屋セミナー「最底辺の10億人の国～ミレニアム開発目標からみたハイチ」(浅野壽夫さん) 7月9日 CODE 寺子屋セミナー「NGOは誰を代表するのか～「最後の一人」まで」(芹田代表) 8月1日 CODE 寺子屋セミナー「ハイチ地震の被災者によるグループ“ACSIS”の支援活動～ハイチから学ぶ～」(ピエールマリさん・岡 智子さんご夫妻) 10月11日 CODE 寺子屋セミナー「CODEのインドネシアプロジェクトについて～ナワンガン村の農村開発の可能性～」(エコ・プラウトさん) 11月28日 CODE 寺子屋セミナー「ハイチの歴史に学ぶ」(とんだばやし国際交流協会主催、JICA大阪共催、CODE協力)
------	---

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	* メーリングリスト、HPでの情報発信 * ニュースレター発行 * ぶどう新聞発行

事業名	救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数

実施内容	<p>< 中国・四川関連 ></p> <p>6月4日 共生人道シンポジウム「国際人道支援にところが揺れ動いた時～中国四川大地震における心理社会的サポート」にコメンテーター、パネリスト出席(村井理事)</p> <p>< ハイチ関連 ></p> <p>9月29日 パナソニック提供・龍谷講座 in 大阪「緊急救援・復興支援の現場から」(ハイチ報告)のパネリスト(村井理事)</p> <p>11月13日 宝塚音楽回廊にてハイチ写真展示・解説(岡本)</p> <p>1月14日 関西 NGO 協議会、パナソニック労働組合連合会にハイチ活動報告(岡本)</p> <p>< アフガン関連 ></p> <p>11月12日～16日 写真展「よみがえれアフガニスタンのぶどう畑」(都市生活コミュニティセンター主催、CODE 共催)</p> <p>1月18日 国際防災シンポジウム 2011「コミュニティ防災の挑戦：気候変動適応への道のり」(UNCRD 等実行委員会主催)でアフガンぶどうプロジェクトを報告(村井理事)</p> <p>1月26日、31日、2月1日 神戸私立楠高等学校の市民講師授業にて、高校1・2年生にアフガンぶどうプロジェクトを紹介。</p> <p>3月11日 コープこうべハート基金運営委員会でアフガン報告(村井理事)</p> <p>< その他 ></p> <p>8月28日 災害看護学会でシンポジウムのパネリスト(村井理事)</p> <p>8月31日 都市生活コミュニティセンターのセミナー「“共同”は海を渡り、そして国境を越えた！」で講演(村井理事)</p> <p>12月上旬 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット、研究用にCODE 災害救援の写真貸し出し</p>
------	---

事業名	機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年3回発行 インターネットは随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地 700人/団体 インターネットは不特定多数
実施内容	<p>* CODE レターを、7月、12月と2回発行した。(1回に700部発行)</p> <p>* ホームページやメーリングリストを利用したインターネットによる情報発信も行なってきた。CODE のメーリングリストは多くの方に見て頂いていることもあって、今年度もメーリングリストに必要な情報を流すことに努力してきた。</p>

事業名	冊子及び書籍等の発行及び支援グッズの販売
実施日時	随時

実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>下記の講演録を発行し、寺子屋セミナー等で販売も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「国際的な人道活動と CODE」 CODE 設立 2 周年記念での芹田代表理事による講演録 ・ 「予防防災」 2005 年度寺子屋防災での室崎副代表理事における講演録 <p>書籍や支援グッズの販売実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記講演録 各 10 冊（贈呈も含む） ・ 「災害救援」 1 冊

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	CODE エイド設立のための情報収集および研究
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	約 5 人
実施内容	特に動きはない。

事業名	CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	<p>本奨学金制度は、2010 年度で 6 年目となった。1 年目の該当者は斉藤容子であるが、当人が留学する直前に開いた歓送会終了後、その時集まった資金 53 万円を全額本人に奨学金として手渡す。以後該当者の提案がなかったため実施して来なかった。</p> <p>なお初年度の斉藤容子が随時返済しており、そのため一端ゼロになった、基金も 151,000 円（今年度 68,000 円）となっている。</p>